

より良い教育研究成果をあげるために

福澤先生は『文明論之概略』の中で、「文明とは人の安楽と品位との進歩」、つまり生活水準と人間性の向上にあり、それらをもたらすのは、インテレクトすなわち智と、モラルすなわち徳の向上であるから、結局のところ「文明の進歩は世人一般の智徳の発生に関するものなり」と明快に文明を定義しています。このことは、知性と人柄の両方を磨くことの大切さを説いているともいえるでしょう。

文部科学省が2007年に策定した「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」が、2014年2月、より現実性かつ実効性のあるものとして改正されました。また、昨今では研究活動のみならず、教育活動にも多くの公的資金が使用されているため、われわれの責任はさらに重くなっています。

慶應義塾でもこれらの状況を踏まえ、不正防止のため、独自の環境整備を進めているところです。公的資金は大切な国税であり、不適切な使用があると説明責任を問われるだけでなく、個人の問題を超え、組織全体の信頼を損ねることもなります。慶應義塾において教育研究に関わるすべての皆さんが、ガイドラインの主旨を十分に理解し、公的資金を適正かつ有効に使用することで、より良い成果をあげていただくことを期待しています。

2014年10月

塾長 清家 篤

公的資金とは

国、地方公共団体またはその外郭団体等(配分機関という)から義塾に交付される資金。研究費だけでなく、教育活動に交付される資金も含め、**公的資金**と呼びます。